

【取組概要】

団体名	「多良間村グッジョブ地域連携協議会」
活動の内容（概要）	「多良間村グッジョブ地域連携協議会」は、産業・経済団体、行政、地域コミュニティが協働し、地域連携型キャリア教育（『多良間村型キャリア教育』）を推進するため、多良間小学校・中学校の教育機関をサポートしている。小学６年生から中学３年生の期間において、発達段階に合わせた系統的・計画的なキャリア教育プログラムの実践を、多良間村の特性や課題を踏まえて支援し、「将来、多良間村に貢献できる人材育成」に取り組んでいる。

受賞理由

- 「15 の島立ち」として島に関わる関係者がスクラムを組み「多良間グッジョブ地域連携協議会」を発足させ、村会議で「子ども議会」を開くなど子どもを主体としながら地域連携型のキャリア教育は持続可能な展開と考える。沖縄本土との交流も今後の展開として化学反応が起きる仕掛けである。
- 「15 の島立ち」という言葉が印象的で、地域において若者の旅立ちを祝福しながらも、寂寥感が感じられる。将来地域貢献できるという未来人材育成の取り組みであり、地域の思いや一体感が現れたキャリア教育である。かつしっかり仕組み化されており、目指すべき力が明確で、年々改善が継続している。保護者ニーズへのフォーカスも他地域の参考になる。
- 高校入学前の不安感を解消する観点で効果的な取組みと評価。
- 中学卒業とともに島から旅立つ若者に対して、島で暮らしているうちに地域連携型のキャリア教育を行おうとする心温まる取組である。将来島に戻る人が増えることを願う。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等）】

- ・多良間村教育委員会（多良間村グッジョブ地域連携協議会事務局）
- ・多良間村立多良間小学校
- ・多良間村立多良間中学校

【行政（首長部局等）や地域・社会（NPO法人やPTA団体等）、産業界（経済団体や企業等）】

- ・NPO法人ふしゃぬふネット（多良間村郷友会地域支援ネットワーク）
- ・多良間村観光振興課 ・多良間村産業経済課 ・JAおきなわ多良間支店
- ・一般社団法人多良間村ふしゃぬふ観光協会
- ・株式会社ケイオーパートナーズ（運営アドバイザー）

活動開始の経緯

沖縄県の離島である多良間島には高等学校がなく、中学卒業とともに進学のために島を離れる（「15の島立ち」と呼んでいる）。「15の島立ち」に向けた「生きる力」の育成と、多良間村に貢献できる人材育成・人材の還流を目指し、多良間村の各団体が協働し「多良間村グッジョブ地域連携協議会」が平成27年度に発足し、地域連携型キャリア教育を推進している。

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

多良間島には高等学校がなく、中学卒業と同時に島を離れる現状があり、少子高齢化や人口減少が課題となっている。多良間村では、地域活性化を図っていく事を施政方針に示し、Uターンや「島の明日を切り開く人づくり」を促進している。その中で、地域の特性を理解し未来の多良間村に貢献で

きる人材を育成・輩出していくために、小学校高学年から中学校3年間を通した系統的なキャリア教育の充実が求められる。

そのため、経済団体、行政、地域コミュニティが協働し「多良間村グッジョブ地域連携協議会」が立ち上げられ、地域連携型キャリア教育（『多良間村型キャリア教育』）を推進し、小・中学校のキャリア教育をサポートしている。

具体的には、年度初めに「多良間村グッジョブ地域連携協議会」を開催し、年間の『多良間村型キャリア教育』の内容確認や、各プログラムへの支援体制が協議される。

例えば、村内の職場体験学習では産業経済団体が受け入れしたり、地域企業等へ協力を呼びかけたりする。また、村内産業視察では行政の産業経済課や観光振興課が案内し説明を行ったり、沖縄本島での職場体験学習やジョブシャドウイングではNPO 法人が協力するなど、各関係団体が専門性を生かして小中のキャリア教育をサポートしている。このようにキャリア教育に必要な幅広い関係機関が協働し、将来の人材の還流を期待し、協力的に小中の教育機関に支援を行っている。

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

（１） 「多良間村グッジョブ地域連携協議会」は幅広い関係機関から構成されているが、事務局を担当する多良間村教育委員会が中心となり、組織がしっかり確立している。そのため、各機関とも「地域連携型キャリア教育（『多良間村型キャリア教育』）推進のため、教育機関の小学校・中学校を支援していく」という共通の方向性と理念を持っている。

（２） 地域連携型キャリア教育（『多良間村型キャリア教育』）を行うことで、身に付けさせたい力が明確に記され、共有できている。〔就業意識の向上・自立への心構え・将来の地域を支える意識の向上等〕

（３） 発達段階に応じた小6～中3を系統的につなぐ「キャリア教育プログラム」を、前年度の反省や運営アドバイザーの意見を踏まえて見直し、今年度の計画に生かしている。PDCA マネジメントを実践することで、平成30年度からは中学1年生向け、令和5年度からは中学3年生向けの新たなプログラムにも取り組んでいる。

（４） 「多良間村グッジョブ地域連携協議会」を年3回計画的に開催し、プログラムの進捗状況報告や、受け入れ企業からのヒアリング・アンケート結果の確認、児童生徒の成果発表を聴くなど、各プログラムの評価・分析を行い、次年度以降の取り組みの改善につなげている。

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

多良間村グッジョブ地域連携協議会が支援する『多良間村型キャリア教育』について

（１） 保護者のニーズの観点から

「15の島立ち」で島（親元）を離れるため、自立心やコミュニケーション能力の向上、人間関係や規範意識、将来の進路選択や職業選択の視野を広げて欲しい等、保護者には学校教育に対する強い要望がある。そのことは、多良間村型キャリア教育を通して、見につけさせたい力と合致しており、保護者のニーズを踏まえた実践と捉えている。（具体的な取組として、職業人講話、電話応対や挨拶、コミュニケーションなどのマナー学習及び講話、職場見学、職場体験、ジョブシャドウイング等）

（２） 地域のニーズの観点から

多良間村では少子高齢化や人口減少が課題となっているため、地域活性化を目指し「島の明日を切り開く人づくり」を推進している。多良間村型キャリア教育は、将来多良間村に貢献できる人材輩出を促進するための資質・能力の育成を図っている。支えられる側から支える側への『人材の還流』を期待しているため、関係機関が協働体制でキャリア教育の推進を支援している。

（３）学校のニーズの観点から

改訂された学習指導要領で、「社会に開かれた教育課程」の実現が重要となっている。よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有化し、見につけさせたい資質・能力を明確にして、社会との連携・協働による実現が求められている。『多良間村型キャリア教育』は、社会へ開かれた教育課程の実践を促進していると捉えている。

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

（１）「多良間村グッジョブ地域連携協議会」を組織する各関係機関の働きかけもあり、中学２年生対象の地元での職場体験学習や、中１年対象の地元の産業調査において、好意的に受け入れてくれる地元企業や畜産農家の方々が年々増加している。このことは、地域の子供も達は地域で育てようという、地域連携型のキャリア教育が根付いてきていると捉えることができる。

（２）改訂された学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントの１つの側面に、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせることと記されている。そのことは、地域連携型のキャリア教育の実践内容と合い重なり、効果的な教育活動への支援と捉えることができる。

（３）平成３０年度から中学１年生対象に実施している多良間村課題発見・解決プロジェクト（『プロジェクトＴ』）は、地元や近隣地域の産業を調べ、地域の現状や課題を捉えて、解決策を考える内容である。多良間村の産業の発展のため、新たな産業を生み出す案や新規産業の誘致案、地元産を生かした６次産業の開発案、新たな観光プラン案などを考案している。子ども目線での地域活性化案を学校内で止めておくのはもったいないため、地域から学び考えたことを地域に発信する機会として、来年１月に村議会で「子ども議会」を開催し、実際に村長はじめ村議会議員、役所の管理職へ提案の答弁をする方向で進めている。地域連携型キャリア教育を通して、地域に対する愛着と誇りを育む事につながっている。

学校現場の評価・感想・コメント

（１）これまで、教育活動に必要な地域等外部からの人的・物的資源の活用を、学校側が交渉・依頼して進めることに大きな負担があり、単発的な取り組みしかできなかった。しかし、「多良間村グッジョブ地域連携協議会」のサポートにより、系統的・計画的な地域連携型キャリア教育の実践が推進できている。学校現場としては生徒への教育的効果はもちろん、職員の業務軽減にも繋がっている。

（２）離島で生まれ育った子ども達には、沖縄本島（那覇）での職場体験学習や宮古島の産業視察などは、とても大きなインパクトがあり、勤労観・職業観の育成や将来の進路・職業選択に大きな影響を与えている。「学ぶ意義」と「働く意義」を生徒が実感し目的意識の高揚に繋がっている。

関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

○進学は８～９割が沖縄本島ということで、１５歳で島立した後の精神的な不安も軽減されるであろう。ＮＰＯ法人ふしやぬふネットとしても、支援の輪を広めていきたい。

○沖縄本島での体験を通して、将来多良間島に貢献する何事にも積極的に挑戦する人材に育ってほしい。（教育委員会関係者）

○沖縄本島や宮古島市での体験学習は、自分たちの住んでいる島を客観的に考えるきっかけにもなったと思う。特に多良間に少ない第2次第3次産業に関わった児童生徒がほとんどで、多良間の将来の発展も見据えながら今後も頑張りたい。（多良間村観光振興課関係者）

○多良間の生徒が地元の畜産業について関心をもって学習するということで、講師を引き受けた。地元の基幹産業について、少しでも興味関心が高まれば幸いである。地元の産業の後継者育成のためにも、多良間の生徒への支援は今後も行っていきたい。（多良間村産業経済課関係者、地元の畜産業者）



- ①沖縄本島でのジョブシャドウイングにおける「直前学習」
- ②沖縄本島でのジョブシャドウイングにおける「出発式」
- ③連携協議会が受け入れ依頼した企業での「ジョブシャドウイング」
- ④沖縄本島での職場体験学習における「直前学習」
- ⑤沖縄本島での職場体験学習における連携協議会メンバーによる「マナー研修」
- ⑥沖縄本島での職場体験学習において多良間島出身でつくる NPO 法人の代表挨拶
- ⑦連携協議会が受け入れ依頼した地元出身が経営する製造業での「職場体験」
- ⑧沖縄本島での職場体験学習における「事後学習」